

抗アミロイド治療をアミロイド PET で評価する

複十字病院 認知症疾患医療センター
飯塚 友道

【背景】抗アミロイド β 抗体薬の登場により、アルツハイマー病(AD)は病態修飾治療の時代を迎えた。アミロイドPETは適応診断に加え、治療に伴うアミロイド変化を客観的に評価できる画像バイオマーカーとして期待されている。

【目的】抗アミロイド治療におけるアミロイドPETの有用性を検討し、治療後のアミロイド除去パターンおよびその個人差について考察する。

【方法】抗アミロイド β 抗体薬を導入したAD患者を対象に、経時的アミロイドPETを施行した。Centiloid(CL)値を用いてアミロイド蓄積量を定量評価し、年齢、認知機能および脳血流SPECT所見との関連を検討した。

【結果】抗アミロイド治療後には全例でCL値の低下を認め、早期のCL変化はその後のアミロイド除去量と関連した。また、高齢者ほどCL低下率が高い症例群がみられる一方、若年例でも著明なアミロイド除去を示す症例が存在し、治療反応性には大きな個人差が認められた。これらの違いは、個々のアミロイドプラークの組成や病理学的多様性を反映している可能性が示唆された。

【結論】アミロイドPETは、抗アミロイド治療に伴うアミロイド変化を客観的に可視化できる画像バイオマーカーであり、治療反応性や長期的なアミロイド変化を理解するうえで有用と考えられる。また、症例ごとの反応性の違いは、標的アミロイド種やプラーク構造の違いを反映している可能性があり、今後の病理学的検証が期待される。

略 歴

1980年 早稲田大学理工学部入学	1998年 複十字病院 神経内科長	
1982年 早稲田大学理工学部中退	2008年 同 アイソトープPETセンター長	
群馬大学医学部入学	2013年 同 認知症センター長	
1988年 群馬大学医学部卒業	2016年 認知症疾患医療センター長	
群馬大学神経内科入局		
1989年 東京都老人医療センター神経内科		現在に至る
1991年 群馬大学神経内科助手		
(アミロイド β 研究グループ所属)		